



春の訪れを感じさせるのは窓。黄砂なのか花粉なのか、朝露で流れて独特の模様を描きます。風物詩ですね。

年が明けてしばらく経ちましたが、つい最近まであたりは真っ白でしたので、田んぼの土が顔を出し、朝日を浴びて湯気を上げているのを見ると、ようやく今年が始まるような、そんな気がします。

筆者にとっては花粉症の季節。この憂鬱に“共感”できるようになった昨年の春から 1 年が経ち、改めて思うことがあります。

皆繋がっているということです。

スギは「風媒花」です。

花粉を雌しべまで運ぶための運送方法として、風を選択しています。

生きるための方法です。

その花粉は風に乗って数十キロ以上、ときには 300 キロ以上離れたところでも飛んでいくそうです。

人の心もそんな風（ふう）に届いたら良いですね。

着地してからが始まりですが。

花粉症発生の定説。

戦後復興や都市開発のためにスギやヒノキが大量に植えられた結果、時代を超えて私たち

は大量の花粉にさらされるようになったという成行きです。

またまた、先人の努力に思いを馳せては感服。

戦後、多くの若者が「地方」を旅立ち、日本の高度成長を下支えしました。

地方は、人だけでなく、食や家の材料を生み出し、送り出し、国の形を創りました。

そんな努力の結果、今日（こんにち）私は目をしばたたかせながらくしゃみをしているのだと思うと、「光栄でございます」と呟きたくなります。

『風が吹けば桶屋が儲かる』ではないですが、森羅万象全てのものが隣同士、または偶然に出会った者同士が作用しあってこの世界は出来ていると思いました。

思いや行動の結果は、ドミノのように伝わっていき、遠く離れていても、何らかの形で作用をもたらすようになると。

否、もたらすことができるということです。

場所も時間も超えて。

新潟・長岡を想いながら離れて暮らす皆さんへ。

お変わりありませんでしょうか。

この土地を思う言葉を交わすことができれば、それはそれは嬉しいことだと思います。

そんな時がたくさん生まれる今年でありますように。

この思いが花粉のように、遠くまでたくさんの人に届きますように(;^ω^)

長岡でお待ちしております。